

作家山本人間有三

岸田國士

青空文庫

「作は人なり」といふ言葉は、言ひ古された言葉だが、これは正面から解釈をすると当らぬ場合がある。作品の一つ一つを取つてみても、ある作家の作品全体についてみても、この人にしてこの作ありとは、聊か意外だと思ふやうなことがある。それはつまり、ある作家は、自分のうちに「有る」ものを直接に現はさず、自分の心に「映る」ものを、好んで表面に出さうとするからである。その「映り」方や「出し」方に、その作家の「人」が浮び出ると云へば云へるのだが、さういふ種類の作家は、往々、好んで、自分のうちに「無い」ものを求めて、これに興味をもつものであるから、作品の姿や、調子からでは、その「人」の姿や調子は掴み出せないのが骨である。前者が「生み出す作家」だとすれば、後者は「作り出す作家」であると云へよう。

さて、わが山本有三は、極めて例外的な作家で、この二つの傾向を、創作の二つの過程に取り入れ、「生みながら作り出す」非凡な事業に成功してゐるのである。彼の作品が、厳肅で、壮年的で、渋味を貴ぶにも拘はらず、誰にも興味をもたれるだけの普遍性があり、誰をも感動させる熱と力とがあり、従つて、今日、「最も勢望ある作家」の一人となつた所以は、しかし、たゞ、そこにあるのではない。

彼は、その作品に、彼自身のあらゆる美德——日本人が、古来、最も愛して来た美德の数々を盛つてゐる。彼の作品に、一つの顕著な風貌を与へるとすれば、それは、恐らく、「頼母たのもしさ」であらう。われわれの歴史は、実に、この一語に、あらゆる道徳的陶醉の秘密を託して来た。私が、彼の戯曲の悉くにいまいまいしくも涙をしばらされ、「何故に泣いたか」を考へてみると、それら戯曲中の人物が、あまりにも「頼母しすぎる」からだと言ひきれなのだ。

だが、こんなことばかり云つてはならぬ。私は、彼の戯曲家としての才能——日本近代劇山脈の高峰として、彼の傑作が、如何なる美学的特色をもつて現はれたかを語らなければならぬが、残念ながら、紙数に制限がある。

彼の劇的作品は、手法の上からみて、二種類に分けることができる。第一は、所謂伝統的ドラマツルギイの定石を踏んだストリンドベリーの作品、第二は、新しい戯曲美の要素から成り立つチエーホフ的作品である。「嬰兒殺し」「同志の人々」「坂崎出羽守」等は前者に属し、「女中の病氣」「海彦山彦」「西郷と大久保」等は後者に属してゐる。そして不思議なことには、この分類は、必ずしもその制作年代の順を追つてゐないことだ。この事實は、彼の芸術的靈感が、徒らに理論と時流に左右されず、常に独自の面目を發揮し

てゐる証拠である。

最後に、彼の小説「波」が、この集に加へられたことをよろこばなければならぬ。なぜなら、この一作によつて、大劇作家山本有三は、忽如として、大小説家たる一面を示し、わが文学史に、貴重な頁を増すこととなつたからである。

戯曲に於て、人間有三の眼ざしを感じ得なかつた読者観客は、この小説で、明かに、鮮やかに、その「頼母しき」作者の心に触れ得るだらう。そして、その「心」は、諸君に、「人生の光」を与へるだらう。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集21」岩波書店

1990（平成2）年7月9日発行

底本の親本：「現代日本文学全集第二十篇 改造社文学月報第三十六号」改造社

1929（昭和4）年12月13日

初出：「現代日本文学全集第二十篇 改造社文学月報第三十六号」改造社

1929（昭和4）年12月13日

入力：tatsuki

校正：門田裕志

2007年11月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

作家山本人間有三

岸田國士

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>